

JOMF 派遣医師便り (2012. 11)

◆マニラ◆

パラセタモール内服薬—どこでも気軽に購入できる薬、 しかし内服時に注意すべきこと

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

当地では発熱や頭痛時にパラセタモール（アセトアミノフェン）が非常に気軽に常用されています。急性上気道炎（風邪など）でも成人の患者さんでは「1錠（500mg）を4時間おきに1日6回飲むように」と指示されるところもあります。一日量にすると3000mgになります。

パラセタモール内服薬は日本と異なり“処方箋無しで購入可能な薬”として扱われています。日本の事情を御存じの患者さんから、「こんなに飲んでも大丈夫なんでしょうか？」との質問をたびたびいただきます。

今回は風邪や発熱のときに使用するパラセタモールを内服するときの注意点について話をします。

パラセタモールは安全な解熱鎮痛薬の一つだとされていますが、日本ではこれまでの研究や治験から効果と安全性を考慮して、「成人の場合、急性上気道炎の解熱・鎮痛に対しては1回300~500mgを1日最大3回まで、1日量は最大1500mgまでとすること」となっています。また内服間隔は4時間以上あけて内服するのが望ましくされています。内服量が多すぎるために肝障害や腎障害を起こしたり、重篤な副作用・中毒症状が出る場合がありますので注意が必要です。（内服量が適切であってもアレルギー反応などの副作用が起こる場合もあります）

次に小児のパラセタモール内服について考えてみます。

日本では小児の薬量は“体重換算”で処方されていますが、フィリピンでは“年令換算”で投薬されているという異点にも注意が必要です。

またこれまで何度も書きましたが、当地の小児用パラセタモールシロップ薬は数種類の異なった濃度のパラセタモールが販売されています。「一回に〇〇cc内服する」という覚え方は誤飲の危険がありますので注意しましょう。「どの会社の、この濃度のパラセタモールは一回に△△cc内服する」というように考えてください。同じ量の〇〇ccでも販売会社により含まれている実質薬内容量が大きく異なる場合がありますので注意しなければなりません。

せん。

パラセタモールは適切に使用すれば安全な薬とされています。副作用が出たとしても多くは、食欲不振、腹部不快感、発疹などの一時的で心配のないものがほとんどです。

しかし少ないですが次のような重篤な副作用が報告されています：肝障害、腎障害、喘息発作の誘発、皮膚粘膜眼症候群、白血球減少、血小板減少など。これらの副作用の中には症状だけからは分からず、血液検査をしないとわからないものもあります。

薬は適切なものを、適切な量を、適切な時期に、適切な方法で使用することが大切です。

これまでにパラセタモールでアレルギーを起こした人、消化性潰瘍、重症の血液異常、アスピリン喘息、重症の肝機能障害や腎機能障害を起こしたことがある方は主治医と必ず相談してください。

どうぞお大事にしてください。